

令和元年度とやま県産材建築物コンクール 講評

住宅部門

賞	建築物名	講評
最優秀賞	住吉のいえ	<p>永く住める木の家として、県産材を始めとする多様な木材を適材適所に可能な限り使いたいという、設計者・建築主の思いが非常に伝わってくる作品です。外装にもスギを使用し、外観を見ただけで木の家だということが分かります。リビングの一部にコンクリートを用いることで木材との対比効果を出したり、梁や柱の構造材にもスギをふんだんに使用しあえて魅せる形にするなど、木を活かす工夫が各所にされています。木材を多く使われていますが、空間の使い方が良く、重苦しさを感じさせない造りになっています。</p> <p>訪れた人が住んでみたくなる、県産材を用いた住宅として総合的に評価され、最優秀賞に選ばれました。</p>
優秀賞	T邸	<p>内部の木組みに用いる丸太梁を伐採時から準備するなど設計者がしっかりとポリシーを持っていることが分かる作品です。外観からも木材を使用していることが分かりやすく、デッキ部分にはしっかり屋根を設置し、雨ざらしにならないよう劣化対策も考えられています。また、県産材の使用量に対するコストが低い点も評価され、バランスの良い県産材住宅として、優秀賞に選ばれました。</p>
優秀賞	太郎丸の家	<p>この作品は、住宅の改修部分の大半に県産材を使用しています。改修前に統一感の無かった外観を、県産材を用いてまとまりのある落ち着いたデザインにすることで、周辺の景観と馴染むよう配慮されています。内部は既存の座敷と改修部分を違和感の無いようにスギを主体にデザインすることで全体を一体的に使用できる造りになっています。また、メンテナンスに対する施主へのサポートなど、工務店としての県産材に対する取り組みがしっかりしていることが評価され優秀賞に選ばれました。</p>
特別賞	H邸	<p>根曲がり材の使用、乾燥技術、防腐処理や加工技術を伝承しようとする強い意思が伝わってきました。スギだけでなく他の樹種も活用し造作家具に利用されています。また、木材の乾燥機を独自で開発し燻蒸処理を行うなど、工務店の木材に対する技術的な取り組みが高く評価され、特別賞に選ばれました。</p>

非住宅部門

賞	建築物名	講評
最優秀賞	該当なし	
優秀賞	滑川市児童館	<p>内部に圧倒的な量の木材を使っており、木造であることが十分感じられる建物です。木の存在感があり、心地よい空間です。木材のあたたかみや感触を感じながら、大空間で開放的に子供達が遊んでいる様子が想像されます。</p> <p>滑川市産のスギ材を最大限に使用することを念頭に設計され、全ての材について含水率20%以下になるまで3回も検査を行い、達成された関係者の努力は素晴らしいです。木材の安定調達が必要ですが、事前に関係者間で調整を重ね、協働することにより調達を実現されたことも評価され、優秀賞に選ばれました。</p>
優秀賞	能作 新社屋・新工場	<p>非木造の建築物への県産材利用として、非常にデザイン性が高い作品です。最近ではルーバーに木材を使うことが増えていますが、その見本のような作品です。木材の見せ方が大変優れており、訪れた人にかんがりのインパクトを与えます。内装だけでなく、カウンターやベンチなどの家具にも県産スギやヒノキを採用しており、施設全体で木の良さをしっかり伝えているので、施設利用者を始めとして他の非住宅施設への普及効果も期待されます。</p> <p>内装木質化の見本となる作品として高く評価され、優秀賞に選ばれました。</p>
優秀賞	魚津市西布施地域活性化センター	<p>地域の活性化等を目的とした施設で、劣化対策についてよく考えられています。魚津市産のスギ材を多く使うことをコンセプトとして、関係者で品質確保のための研修会を開催し、柱や梁、フローリングなどの様々な部分に材を利用しています。また新しい技術の接着重ね梁を魚津市産スギ材で製作し、建築に取り入れていることも評価され、優秀賞に選ばれました。</p>